

第9期中野区健康福祉審議会 健康・介護・高齢者部会（第5回）

開催日 令和2年8月6日（木）午後7：00～

開催場所 中野区役所 9階第11・12会議室

出席者

1. 健康・介護・高齢者部会

出席者 武藤 芳照、石山 麗子、渡邊 仁、原沢 周且、高松 登、  
梅原 悦子、長賀部 美幸

欠席者 渡部 金雄、濱本 敏典、宮原 和道、杉谷 美枝子

2. 事務局

健康福祉部 福祉推進課長 石崎 公一

健康福祉部 スポーツ振興課長 古本 正士

地域支えあい推進部 地域包括ケア推進担当部長 地域包括ケア推進課長（地域包  
括ケア推進担当部長事務取扱） 藤井 多希子

地域支えあい推進部 介護・高齢者支援課長 葉山 義彦

地域支えあい推進部 北部すこやか福祉センターアウトリーチ推進担当課長

滝浪 亜未

【議 事】

○武藤部会長

それでは、定刻を過ぎましたので、まだ出席予定の委員の方がいらっしゃいますが、開始させていただきます。

まず、石崎課長のほうから、全体の流れをお願いします。

○石崎福祉推進課長

皆さん、こんばんは。本日は渡部委員、濱本委員、杉谷委員からご欠席のご連絡を頂いています。また、宮原委員、梅原委員につきましては遅れているということで、後ほど到着されるかと思っております。

次第の裏面に本日の資料一覧をつけてございます。資料1から資料12ということで、本日は12種類、事前に郵送させていただいております。そのほか、本日は区内の大学、専門学校、高等学校の一覧をつけさせていただいております。

また、本日ご欠席のお二人の委員からのご意見について、要旨を机の上に置かせていただいておりますので、ご確認ください。以上でございます。

○武藤部会長

資料の不足が特になければ始めさせていただきます。ご都合でご欠席の方もありますが、特に区民代表の長賀部委員は、今日はお二人のうちのお一人なので、中野区民代表で思いの丈をどうぞ伺わせていただければと思います。

健康・介護・高齢者部会の8月の会議を開始いたしますが、本日の審議事項は2件、報告事項が2件、その他ということになりますので、よろしくお願いたします。

まず、審議事項の第1項「特養・グループホーム等施設の整備を進めるための方策について」ということで、資料1及び資料2～4に基づいて、葉山課長からご説明を頂きます。

## ○葉山介護・高齢者支援課長

よろしくお願ひいたします。では、資料1でございます。本日も議論いただくテーマとして、特養等施設の整備の推進と介護人材の質・量の確保を挙げております。

1番目の「特養・グループホーム等施設の整備を進めるための方策について」を御覧ください。現状と課題ですが、特養やグループホームなどいずれも待機者がいる状況、用地の不足などの課題がある中、量的拡充と質の向上を図りつつ、整備を進めていく必要があるところでございます。

取組の方向性として3つ挙げてございます。参入事業者を誘導するための区独自のインセンティブの創設、土地所有者と介護サービス運営事業者とのマッチング、それから、公有地活用の継続と考えております。2番目のテーマにつきましては、後ほど説明させていただきます。

では、資料2を御覧ください。現行の第7期介護保険事業計画における本年度までの整備状況でございます。表でございますが、真ん中の網かけとなっている列が、第7期計画に対する実績でございます。その右側の列が開設数となっております。第6期計画で整備計画を定めたものが、開設になったのがこのときということで、このような数字となっております。

表の下に記載しておりますとおり、区内の特別養護老人ホームは待機者数が633人、整備率は23区における数値と中野区は同等という現状でございます。

2ページ以降では、各施設ごとの生活圏域ごとの数字を掲載しておりますが、先ほどの表の最初にお示ししたとおり、特定施設以外の実績がない状況でございますので、説明を省略させていただきます。

続きまして、資料3「在宅生活改善調査集計結果」でございます。ケアマネジャーの皆さんにご回答いただいたもので、現在のサービスでは生活維持が難しくなっている方についての調査でございます。まず、3ページを御覧ください。自宅からの行き先を調査したものでございますが、介護施設である特養、老健、介護医療院の3施設、それから特定施設、有料老人ホームがそれぞれ15%前後となっております。それらが主な行き先ということが分かります。

次に7ページをお開きください。こちらは在宅生活が難しくなっている利用者の属性となります。1位、2位を合わせた持家、借家の部分を見ますと、独居で要介護2以下の方が合わせて35.5%という高い数字となっております。

8ページを御覧ください。こちら本人の状態で見ると、生活の維持が難しい理由です。要介護3以上では「必要な身体介護の増大」が最多でございますけれども、全体としては「認知症の症状の悪化」が一番多くなっているという状況でございます。

次に、15ページを御覧ください。生活の改善に必要なサービスということで、各サービスのニーズを調査しております。表の4つに区切ってあります枠の左上の部分、こちらが施設等ですが、ここではグループホームが55.9%と高くなっております。在宅の難しい方では、先ほどの独居で要介護2以下の方が多かったこと、それが難しくなっている理由として、認知症状の悪化が多かったことなどからも、認知症というのが1つの大きな要因となって、認知症対応型であるグループホームのニーズが高いと考えられるところでございます。

11ページを御覧ください。在宅が難しくなっている理由として、必要な身体介護を挙げた方の中での具体的な内容です。要介護3以上の重い方では、日中、夜間の排泄が約9割、そのほか入浴、移乗・移動、食事、着替えなどの割合も高く、これらを1回で全て行うというより、1日に何回もヘルパーが入る必要があるという状況が見てとれます。

15ページにお戻りください。右下の枠を御覧いただくと、生活改善に必要なサービ

スとして、多いほうから言いますとショートステイ、定期巡回、小規模多機能、リハも含めたデイサービスなどが挙がっております。1日フルに対応していく必要があるというところがございます。

では、次に資料4を御覧いただけますでしょうか。「居所変更実態調査集計結果」でございます。これは施設などの管理者の方にご回答いただいたものでございます。3ページを御覧いただけますでしょうか。退所の際の死亡の割合でございます。特別擁護老人ホーム、介護医療院は割合が多いのですが、住宅型や特定施設有料老人ホームも死亡が多く、看取りまで行われているのではないかと考えられます。

それから、10ページを御覧いただけますでしょうか。こちらは介護老人保健施設、老健の退所の流れになります。老健につきましては、右側の表を見ていただくと、お亡くなりになる方もいらっしゃるわけですが、ご自宅に戻る方が半分いらっしゃる。この施設の持っている機能回復の役割というものが果たされているかなと確認できるところでございます。

1番目のテーマにつきましてはの説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

#### ○武藤部会長

ありがとうございました。ただいまの説明にありましたように、資料1には課題が2つありまして、1つ目の課題についての説明でありました。課題は「特養・グループホーム等施設の整備を進めるための方策について」ということで、取組の方向性は3点述べられておりまして、資料2、3、4、具体的な調査結果の数字に基づく説明を頂きました。

まず、この課題の1について、それぞれ総括的な、あるいは資料2、3、4の個別的なところで、何か確認したい点、質問、発言等がありましたらどうぞお願いいたします。

#### ○梅原委員

すみません。資料3の3ページのところなのですが、過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数というところの上から7番目です。地域密着型特定施設に区内が1人とそれ以外が1人とあるのですが、これは有料老人ホームという考え方でよろしいでしょうか。

#### ○葉山介護・高齢者支援課長

そうですね、規模の小さい介護付きの有料老人ホームです。

#### ○梅原委員

ありがとうございます。

#### ○武藤部会長

よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

#### ○原沢委員

この資料2の、区内特養の待機者数の633人というのは、以前と比べてどういう感じになりますか。

#### ○葉山介護・高齢者支援課長

大体これくらいの数で推移しております。

○武藤部会長

ほかにどうぞ。

それでは、私のほうから、まず資料1の「1 特養、グループホーム等施設の整備を進めるための方策について」の「取組の方向性」のところで、「区独自のインセンティブ」という表現なのですが、「区独自」ということはほかの市町村、都道府県でそうしたものの事例があって、それとは違う独自の個性的なインセンティブを作りたいという意味だと思うのですが、一般的にはどんなことがあるのでしょうか。

○葉山介護・高齢者支援課長

整備を進めたいという意向のある事業者さんにある程度聞き取りを行っております。1つは、やはり土地を確保するところが難しい。それから、もう1つは、どこに整備するかを考えたときに、補助金高というものが選ばれている、重要になってくるという回答を頂きました。

インセンティブでございますけれども、ほかの区も参考にさせていただきますと、独自の補助金みたいなものを出しているところが多いかなという状況でございます。

○武藤部会長

質問は、一般的には何がが多いのかということで、中野区として「独自」という言葉をわざわざ使っているのは、それに負けない何か新しいものをやりたいという意味ですよ。

○葉山介護・高齢者支援課長

そうですね。東京都や国の補助金がございますので、そういったものはほかと比べて中野区が競合となった場合に、選択していただく要因とはなかなかかなり得ないということがございますので、一般的に整備を進めていただくためには、補助金が必要だろうということで国のほうも進めているところがあるのですけれども。

○武藤部会長

全国的にはほかのところと似たように、補助金で賄いたいというお話ですよ。

○葉山介護・高齢者支援課長

そういったことも1つの方策かなと考えております。

○武藤部会長

それから、資料2、「整備率」という言葉がありますが、これは※印で見ると65歳以上の高齢者人口が分母で、施設定員数が分子ということなので、整備率を比較するとき、1%~2%で何かこれが達成しているかどうかというような非常に小さな数字になっております。国や都も同じ指標を使っていると伺いましたが、要介護の対象になるような高齢者を分母にしたら、もう少し実態を把握できるのではないかと思ったのですが、今すぐ変えたほうが良いということではなく、そういう考え方もあるのではないかと思います。

○葉山介護・高齢者支援課長

はい。

○武藤部会長

ほかにいかがでしょうか。

要望として部会長から出しましたのは、資料3、資料4で図とか表で数字がいっぱい並んでいる資料が出てきていますので、これは表紙の裏に、まず調査の概要が書いてあるのですが、結果の概要を明示していただいたほうが、初めて見る方はよく分かる。それから、区民にとっても結果の概要だけ確認して、細かな数字は後で拾うということは合理的ではないかと申し上げておきましたので、以後、ほかの場合もそうだと思うのですが、調査結果を出すときには数字や図表だけではなくて、あらかじめ結果の概要を文章、あるいは箇条書きでまとめていただくと分かりやすいと、これは要望であります。

○葉山介護・高齢者支援課長

はい、分かりました。

○武藤部会長

各委員からほかはよろしいでしょうか。

あと細かなことで、「兄弟、子ども、親戚」という言葉がどこかにあったのですが、「兄弟・姉妹」という「姉妹」を入れなくていいかなと思ったのですが、これ区としてはいつも「兄弟」と言っているのですかね。

○葉山介護・高齢者支援課長

女性も含めてと考えております。

○武藤部会長

いろいろな会議でまずここで引っかかって大激論になってしまった部分もあるので、省きます。

資料1に戻りまして、課題の2について同じく葉山課長、お願いします。

○葉山介護・高齢者支援課長

続きまして、また資料1を御覧ください。下側の人材確保のほうでございます。国や都、それから区それぞれの役割に応じて、研修、助成などの施策を行ってまいりました。まだまだ課題であると認識しておりまして、取組を進めていく必要があるというところでございます。

裏面を御覧ください。取組の方向性を3つお示ししております。介護人材の確保事業の拡充、こちらは介護の仕事に対するイメージアップや入門的研修などによって裾野を広げていくというものです。それから、介護サービスの質の向上に資する事業の継続及び拡充、介護人材の定着に資する取組ということですが。

資料5をお開きください。こちらは中野区が行っております介護従事者の定着支援事業と介護職のキャリアパスの関係を表したものでございます。ピラミッドの上のほうは、資格としては上位のものになっておりまして、裾野へ下りていくに従って、研修時間も短くなっているというものでございます。一番下の「中野区認定ヘルパー養成研修」は区のほうで独自に設けている研修でございます。総合事業の訪問サービス、もちろん施設等のサービス等も含まれますけれども、こういったところで従事できるものとなっております。研修時間は13時間で、介護の仕事への入門となるものでございます。全体の過去3年間の実績が右側の表のとおりでございます。

次に、資料6を御覧ください。こちらが中野区で行っております介護サービス事業所の職員を対象にした研修の実績でございます。ケアマネジャーをはじめとして、施設や

訪問、通所、在宅ケアの事業所職員、新任から管理職まで各レベルに応じた研修を実施しておりまして、実績の数字については表のとおりでございます。

次に、資料7を御覧ください。こちらは国が示す人材の確保策でございます。職員の賃金については、昨年の消費税改定に合わせまして上乘せをしたというところでございます。介護ロボットの開発を加速化させる事業、それから介護職の魅力向上に向け就職フェアやイベントなどでの魅力の発信、外国人材の受入れ環境整備などがございます。

続きまして、資料8になります。こちらは東京都の人材に係る事業でございます。様々な研修、育成の事業と、介護機器の常設展示、セミナーなどによる活用支援など都民への総合的な情報提供、サービス事業者への支援として奨学金、それから宿舍の借り上げ支援などを行っているという状況でございます。

続きまして、資料9でございます。この「介護人材実態調査」の集計結果でございますけれども、各施設やサービス事業所の管理者の方にご回答いただいたものです。

5ページを御覧いただけますでしょうか。非正規職員と正規職員の割合でございます。一番上のところ、全体を見ますと42.5%が非正規職員となっております。ちなみに国の調査、労働力調査ですけれども、それによりますと全業種で見ると38%程度ということでございますので、介護の分野での非正規職員の割合は比較的高いという状況が見られるところでございます。

それから、6ページでございます。こちらが性別、それから年齢別の雇用形態の構成比になっております。こちらでの男女、右側と左側での差を見ていただくと、正規職員については、それほど差がないような状況なのですが、非正規職員の部分では40代以上の女性の部分が圧倒的に多いという特徴が見られます。

次に、12ページを御覧いただけますでしょうか。こちらが介護職員数の変化でございます。昨年と比べると全体で103.8%という比較になります。介護者数の増加ということで見ますと、区の状況としては、認定者数で大体1年につき1%くらいかなというところですので、職員数の伸びのほうが大きいう状況下でございます。ただし、もともと介護職員の不足がうたわれている状況ですので、これからも必要となる部分ではあると捉えております。

それから、16ページを御覧いただけますでしょうか。こちらは訪問介護員の年齢別のサービス提供を時間で見ましたものです。従事する方の年齢が高くなるにしたがって、身体介護などが短くなるということが確認できます。やはり体力的な部分ということも言えると思いますので、例えばロボット等のサポートが入ってくれば、この辺りに変化が生じ得るというところでございます。

以上、資料9になります。

それから、資料10を御覧いただけますでしょうか。こちらは2025年、団塊の世代が75歳以上になると言われているときの人材の必要数でございます。東京都が出している数字を基に、中野区の必要数を推計したものでございます。東京都で3万4,000人という前提がございますので、そこから推計すると、中野区では763人の介護人材が不足するというものでございます。

それから、冒頭にもありましたけれども、部会長からご依頼がありまして、1つ資料を追加しております。区内の大学、専門学校、高等学校にどんな学校があるか、どんな学部があるかということをお示ししたものでございます。専門学校がこれだけあるというところでございますけれども、参考におつけしたものでございます。

私からの説明は以上です。

## ○武藤部会長

ありがとうございました。最後の新たに設けていただいた資料は、区内にどのような

大学、専門学校と高校があるかについてお示しを頂いて、人材育成という観点で、その根拠資料ということで追加をしていただいものであります。

まず、資料1の2の大きな課題に基づいて、資料5～10の各論がありました。それらにつきましてご意見、質問、確認したい点等がありましたら、どうぞお願いいたします。

#### ○梅原委員

2つ質問がございます。資料5の中野区認定ヘルパー養成研修から、2つ上に上がりまして初任者研修のところなのですが、私、この13時間を介護職員初任者研修の時間の中に何とか組み込んでいただけないかと昨年申し上げたのですが、それについては何か動きがございましたでしょうか。

それから、資料6でございますが、これは例示をたくさんしていただいて、事業者数と人数と書いているのですが、参加率はどのくらいなのだろうと思ひまして、特にケアマネジャーとかだと、全体の人数が分かるかと思うので、大体どのくらいの参加率なのだろうということをお教えいただきたいと思います。

#### ○葉山介護・高齢者支援課長

では、まず1番目のところでございます。認定ヘルパーの研修で受けた分を、初任者研修のほうに免除のような形で反映させてもらいたいということだと思います。今、国のほうでは、入門的研修というものを設定してございます。こちらは21時間の研修でして、その21時間がそのまま初任者研修のほうで使えるといいますか、反映されるということになります。今後になりますけれども、認定ヘルパーの研修をその入門的研修に代えるということも考えられるかなと、今、検討をしているところでございます。

#### ○梅原委員

よろしく申し上げます。

#### ○葉山介護・高齢者支援課長

それから、2番目の特にケアマネジャーのところだったら参加率が分かるのではないかということなのですが、全体で87の事業所がございますので、ほぼほぼ参加していただいているかなと捉えております。

#### ○梅原委員

87事業所で1事業所1人のところもあれば、6人も7人もいるところもあるかと思うのです。ケアマネジャーの全体の数に対してどのくらいの方が参加しているのかなとちょっと思ったものですから。

#### ○武藤部会長

それは、今すぐには答えられませんね。

#### ○葉山介護・高齢者支援課長

そうですね。

#### ○武藤部会長

区内のケアマネジャーさんは。

○葉山介護・高齢者支援課長

なかなか人数としての把握が難しいところがございます。

○武藤部会長

ただ、ご指摘は重要なところで、研修の対象となる母数がどのくらいで、参加者がどのくらいでということになると、次の計画を立てるときとか、広報啓発の働きかけの仕方が変わると思うので、そこは抑えていただいたほうがいいかと思いました。

○葉山介護・高齢者支援課長

実際に届いているかというところでは考えなければいけないことと思います。

○武藤部会長

ほかの研修の項目についても同様のことだと思えます。ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

○高松委員

資料7の総合的な介護人材確保対策のところなのですが、これまでの主な対策が書かれていまして、今後さらに講じる主な対策という課題になっているのですが、これまでの対策を取られた中で、今までのところでの評価というのをもう一回ちょっと整理したいのですが、これらの対策を捉えていって、どの辺が重点的に効果があったのか、逆にやっているけれどもあまり効果が見られないとか、そういうのがあれば教えてください。

○葉山介護・高齢者支援課長

どの対策にどの程度の効果があったかというのは難しいところなのですが、やはり一番は介護報酬というところで、こうやって直接的にお金の面で上積みされているというところは、給料引き上げにつながっているかなと考えます。対策ごとの成果の捉え方というところを、国からもなかなか示すことは難しいかなというところで、私どものほうでもちょっと把握しきれていない部分でございます。

○武藤部会長

よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○長賀部委員

質問なのですが、資料8に東京都の介護人材に係る事業というご説明があります。また、資料6には中野区でやっていらっしゃる研修もあります。この東京都のやっている研修と中野区のやっていらっしゃるということのは、相互に連携しているのでしょうか。例えば、補完的なことになっているとか、それともプラスアルファになっているとか、そういった連携的なことはなされているのでしょうか。

○葉山介護・高齢者支援課長

例えばたんの吸引につきましても、もともとは東京都の研修だけではなかなか受けとめきれないという部分があって、中野区も始めたという経緯がございました。そういった中でやっているうちに、東京都のほうも少し受講生に余裕が出てきた。それから、中野のほうの事情としても、少ない人数になってきましたので、そういう状況を見ながら令和元年度に区の喀痰吸引研修を廃止したという例もございますので、区としては東京



都の状況を見ながら必要な研修について補完していくということになるかと思えます。

○武藤部会長

よろしいですか。

○長賀部委員

もう1つですが、それでは、直接東京都とやり取りをしているというわけではなくて、状況を見ながらご担当のほうで検討されていると、そういった流れでしょうか。

○葉山介護・高齢者支援課長

基本的にはそのような形になります。

○武藤部会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

私のほうから2つ。まず、1つは、先ほど介護職員数の変化という資料が、資料9の12ページですかね。介護職員の中の離職ですね。質問は、ざっくり言うと100人くらい採用するけれども、90人くらい辞めていくというのがずっと続いていると。辞めていく人が減れば、充実した状態は保てるということで、離職者対策、離職の予防、防止、その働きかけをどうするかというのは、かなり重要なテーマではないかと思えます。採用したら90%くらいの人が辞めていくという、これはほぼ数字は変わらないのですよね、最近。

○葉山介護・高齢者支援課長

そうですね。その辺がやはり課題、どうやって定着を進めていくかということになるかと思えます。国や都でも研究を進めておまして、やはり給料面もある。それから仕事の大変さということ、そういったところもあるのではないかと、ところが分析としては出ているところです。

○武藤部会長

それは離職者にインタビューしたわけですね。辞めた人は何で辞めたかという問いかけがされているのですか。あなたは何が嫌で辞めたのかと。

○葉山介護・高齢者支援課長

そうですね。離職した方への調査ということになります。

○武藤部会長

それは継続しているのですか。集団の調査と個別的な調査と。

○葉山介護・高齢者支援課長

ええ、離職された方への。

○武藤部会長

それは毎年やっているのですか。

○葉山介護・高齢者支援課長

国で毎年やっています。

### ○武藤部会長

いや、区でやっていることは。

### ○葉山介護・高齢者支援課長

区では本人に対する調査はやっておりません。

### ○武藤部会長

例えば100人離職した本人を集めて、1人ずつ聞くのは大変かもしれませんが、そのヒアリングをやると実態をつかめるのではないかという気はするのですが、調査そのものの時間が取れるか分からないのですけれども、毎年90%くらい辞めていくという実態があって、それを区は何もしないというのはもったいない気がするのと、何で辞めたか分からないのに対策を講ずるのは非常に難しいと思いました。

それから、参考資料の学校の一覧表ですが、私の思いは、専門学校とか大学もそうなのですが、特に高校生たちを集めた、介護職というものがどんなものであるかというセミナーを、夏休み、冬休みなどを使って行うということは、ほかの都道府県自治体、私の知っている範囲では何件か聞いているのですね。高校生は人生を決めるときなので、介護職を目指したいという高校生たちの意見を聞くことができる。セミナーをやったけれども、何人かしか集まらなかったからという声を聞いたことがあるのですが、1人でも優秀で力のある人が介護職になれば、その人が次の社員さんの芽を育てていくきっかけにはなると思っています。だから、高校生とか専門学校の生徒とか、大学生に対する働きかけは、人材育成と裾野を広げるといふことと将来の介護分野を任せられる人材を区としてもしっかりと育成するといふことで、教育との関わりでもう少し企画してもよいのではないかと感じました。

これだけ高校や学校がありますので、この中から代表10人が集まってセミナーをやればゼミができますので、ここの部会のメンバーの先生方にも協力してもらえば、非常に密度の濃い、良いセミナーができるのではないかと思います。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に参ります。課題の1、2について、もしまた何かありましたら、その全体が終わったところで総合討論させていただきます。

報告事項に入ります。「第8期介護保険事業計画の基本指針について」、これも葉山課長、お願いします。

### ○葉山介護・高齢者支援課長

では、資料11を御覧ください。「第8期介護保険事業計画の基本指針について」でございます。

こちらは国の案でございます、第8期計画において記載を充実するものということで表しているものでございます。2025年、2040年を見据えた基盤の整備、地域共生社会の実現に向けた考え方、それから取組について、介護予防・健康づくり施策の充実、都道府県に登録したり届出を行います有料老人ホーム等につきましても、東京都、区との連携の強化ということで行われているところでございます。認知症施策の推進ですね。それから地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び業務効率化の取組といふところ、それから、最近の状況からでございますけれども、災害やコロナウイルス感染症なども含めて感染症対策に係る体制整備ということ、ここも追加で近々になって加えられたものということになります。

今、国のほうで示している基本指針の情報について提供させていただきました。以上になります。

○武藤部会長

ありがとうございました。社会保障審議会の介護保険部会の資料ですね。何かご質問、確認したい点等ございますでしょうか。

○石山副部会長

国のほうで第8期計画を考える際に、2040年までを見据えてということが言われてきております。これは計画作成をしていくための議論の1つだとお聞きしているのですけれども、例えば資料2の中野区の施設サービスですね。政府の状況というものをどうしていくかと考えたときに、2040年までにおおむね施設利用者数の推計はどれくらいあるというような推計値を出した上で、第8期ではどれくらい必要だけれども、第7期の実績がこうであるというような、2040年を目途として国のほうでされているので、計画を考える際には、実際には2040年の推計値が本当にそうなるかどうかは別として、それを見ながらやっていくのかなと思います。その推計の出し方は様々あると思うのですけれども、現状の例えば特養の入所者の前の居所はどこだったのかということも、比率などを見ながらどれくらいの人たちが年次でどこに入っていくという推計が、可能な範囲でできるのではないかなと思いました。

なので、申し上げたいことは2040年を目途としてというところが、資料に推計値として入るといいのではないかなと思います。その施設サービスについて考えるときに、お示しいただいたものが在宅生活改善調査という、在宅生活の改善の調査というところなので、また別の機会でこの調査を基に、在宅生活をどう改善していくのかという議論がなされるのかなと期待をしておりますけれども、在宅生活が難しくなったから、では、即施設のほうにという考え方ではないのではないかなと思っています。どちらも大事なので、小多機や看多機なんかも含めた中で、全体の地域資源のバランスの中で、施設整備をどう考えるとか、2040年のその姿を見ながら第8期の全体の社会資源とか、それがハードのものとソフトのものをどう考えていくのかということになるのかなと思いました。

○武藤部会長

ありがとうございました。20年先をよく見ながら、ハードとソフトをしっかりと計画しましょうというお話ですが。

○石山副部会長

よろしいでしょうか。特に施設整備に関しては、2040年と、あと20年後なので、高齢者数のピークが来るので施設を多分整理するというのは、法人さんに見れば返済の期間であるとか、その前にペイできるかとかそういったことのぎりぎりの時期に来ているのかなと思いますので、施設の整備は今、本当にしなければならぬことですが、そういったことも含めて配慮していかなければいけないと思います。

○葉山介護・高齢者支援課長

まさに地域包括ケアシステム全体としてどういうふうに進めていくか、在宅でできる限りということもございますので、その辺もまたこれから表せるかということも検討していきたいと思います。

○武藤部会長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、基本指針については以上にさせていただきます。

続きまして、資料12です。石崎課長から「高齢・福祉介護保険サービス意向調査速報について」、お願いします。

### ○石崎福祉推進課長

それでは、お手元の資料12を御覧ください。こちらが「中野区健康福祉総合推進計画2018」の進捗、令和2年3月時点での進捗状況をまとめたものでございます。左から5番目の進捗状況というところ、全部で100項目あるのですが、計画どおり取り組んだものが◎で79項目です。計画どおりでなく変更して取り組んだものが○で13項目、計画に着手したものの十分に進行しているとは言えない部分が△で8項目、未着手はゼロでございます。

このうち、△印のものについて概略を説明させていただきたいと思います。

まず、6ページの上から3つ目です。「新型インフルエンザ等健康危機管理対策の推進」ということで、これが新型インフルエンザ等の対策というところに限っていえば、具体的な検討は止まっているところで△をつけております。

なお、今、新型コロナウイルスの問題がありますけれども、5ページの一番下「感染症対策の充実」というところでは、前期の計画のものについては◎というところで、感染症発生動向調査の継続でありますとか、情報収集・提供体制が維持されている。また、感染症法に基づく患者発生時並びに積極的疫学調査等について、的確な対応が取れているというところ、おおむね順調という評価になっています。一方で、新型コロナウイルスも出てきましたので、今後の課題といたしましては、感染症危機管理体制、全庁体制を強化していくということ、また新型コロナウイルス感染症に対する危機管理体制の構築が必要であること、また感染症発生に備えた人材育成方法について検討が必要であるということ进行分析してございます。

続きまして、9ページの一番下の項目「要介護高齢者等に対するショートステイの充実」でございます。これにつきましては、平成元年7月にハートテラス中野弥生町に開設した。また、江古田四丁目に令和2年に開設予定となっているところで、△とさせていただいております。

同じページ一番上でございます。「地域での生活を支える介護サービスの充実」ということについても、それぞれ実績について定期巡回についても1件、小規模多機能から看護小規模多機能への転換についても1件となっているところから、△とさせていただいております。

続きまして、10ページをおめくりください。10ページにつきましては、上から2つ目の「認知症高齢者グループホームの誘導整備」、また3つ目の「都市型軽費老人ホームの誘導整備」については、実績がなかったというところから△となっております。また、その5つ目の、「介護老人福祉施設の整備」というところ、またその下、「介護老人保健施設の整備」ということについても、計画した整備数に満たなかったため△という評価になってございます。

それと11ページ、下から3つ目、「介護給付費の適正化」というところでは、ケアプラン点検の実施事業者数として、現時点では予定より少ないというところから△にしてございます。

以上が計画に着手したものの十分に進行しているとは言えないという項目でございます。そのほかにつきましては、後ほどお読み取りを頂ければと思います。

私からの報告は以上でございます。

### ○武藤部会長

ありがとうございました。まず、確認ですが、この進捗状況の凡例であります○とか

△とか×、これはどなたがつけているのですか。

○石崎福祉推進課長

これは各所管課のほうで評価をしております。

○武藤部会長

担当課がつけているのですか。自己評価ということですね。

○石崎福祉推進課長

そうです。

○武藤部会長

△が7つあって、7つとも同じ課の所掌ですよ。自己評価は非常に厳しい箇所なのか。自分たちはよくやっているよと◎をつける人もいるので、他者の管理は関係ないのですね。

○石崎福祉推進課長

基本的に計画を立てて実行していくのがそのときの担当ということですので、担当の中でどういうふうにやっていくかという評価をさせていただいております。

○武藤部会長

その担当課で評価をしたもの、これ全体で比較評価をするので、これ高齢者介護関係だと、担当部局何やっているのという話にも取れてしまう。それで本当にいいのかと。第三者は入らないのですね。

○石崎福祉推進課長

評価の理由も含めて出させていただいているので、この実績なのでこの評価ですというところで、もちろんそういうふうに捉えているかなと認識しているところです。

○武藤部会長

分かりました。いかがでしょうか。何かご質問、コメントがございましたら。

進捗状況の質的評価ということなので、これ以後の事業展開に恐らく大きく影響する○、×、△かなと思うので、その辺り比較検討しながら議論を進めたほうが、本当はよいかという気はしますけれども、今日のこの資料に基づいて何かご質問、コメントがありましたらどうぞ。

○長賀部委員

資料の中で、例えばグループホームや都市型軽費老人ホームの誘導整備について、建設費が高騰しているから事業者があまり手を挙げなくなっているのではないかという記載があるのですが、1ページの普及啓発活動の関係では、協定締結企業等ということで区内金融機関の名前が書かれております。建設費の高騰というようなことで、金融面、資金面での不安があるとか、助成金や費用の援助に関する申請書等の書き方とか、その辺り何か難しくてなかなか事業者さんが頼れないみたいなことで、もしかして二の足を踏んでいるということもあるのかなと。そうした場合に、せっかく金融機関と協定を結んでいるということですので、その辺り、連携や、事業計画を立てるところで援助をいただくとか、そういったことは考えられないのかなとちょっと思いました。

○葉山介護・高齢者支援課長

先ほど私のほうでの事業者等々からの聞き取りということでご説明させていただきました。土地を確保するという面と、それから東京都という土地が高いところですし、なかなか価格としても高いところ、国側と都等も含めて補助をしているという状況でございます。

金融機関に対し、何かお手伝い等々お願いできないかということでご提案いただきました。手続等々で何か困るということは、事業者としてはないと考えております。皆さんその辺のところは十分にご理解していただいた上で、実際に収益的にどうかということの勘案になってくるかと考えております。

○武藤部会長

よろしいですか。

○長賀部委員

実際に国や東京都、区などの補助金申請は難しいという事業者の声があるのは事実です。地域密着を目指す金融機関さんは、何かそういったサポートをすることに道を見つけようとしていることや、金融資産等について相談される立場になることがあるということ等から、土地の所有状況についてでありますとか、事業の内容などをよく知ってらっしゃると思われるので、その辺の情報を持っていらっしゃるのかなと思います。

あと、東京都内だけではなくて、関東地域の金融機関については、関東財務局が管轄していると思いますので、何か情報をもらえるのではないのかなと個人的には思います。以上です。

○葉山介護・高齢者支援課長

ありがとうございます。

○武藤部会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。これざっと見ると熱中症のことがどこか拾えないかと思ったのですが、拾えますかね。

○石崎福祉推進課長

区の環境基本計画に熱中症の記述はあるのですがけれども、今後としては健康に関する課題としてやはり熱中症というのは1つ大きな視点ではあると思いますので、次期の計画については、その記載についても検討してまいりたいと思っております。

○武藤部会長

現代的なテーマであるし、年々さらにリスクは高くなると思われまますので、この担当部署で所掌で言うと、保健企画課の普及啓発事業なのかなとは思っておりますけれども、これを見ると事業内容に方法論が書いてあるのですが、具体的なテーマとして熱中症なども加えると、拾えないことはないと思われました。

○石崎福祉推進課長

ありがとうございます。

○武藤部会長

ほかにいかがでしょうか。

### ○梅原委員

一番最初の◎のところ、高齢者の就労支援です。「シルバー人材センターの活動をホームページで紹介するとともに」というところなのですけれども、アクティブシニア層に対するというところで、これ何か反響とかあってありますか。また、ホームページはなかなか調べ物をするときしか見ないのですけれども、これは例えばやっつけやっつけやるかもしれませんが、Facebookみたいなものにして、こんなことをしていますみたいな発信とか、どのくらいの方がそれを閲覧しているのかとか、何かそんなことを拾っつけやっつけやっつけいますか。

### ○葉山介護・高齢者支援課長

具体的にホームページをどれくらい見たかというところについては、把握していないところでございます。シルバー人材センターを1つの法人として、自らそういったサークル活動、入会する方への案内などに取り組んでいるところでございます。区としても1階のロビーを提供して、広報活動に協力したりというところで支援をしていきたいなということで考えているところでございます。

### ○梅原委員

ありがとうございます。

### ○武藤部会長

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、資料12については以上とさせていただきます。

それでは、これまでの審議事項と報告事項、全体について何か後から気づいたこととか、今、皆様のご意見を伺っていて、改めて感じたこととかありましたら、それぞれご自由にどうぞ。

では、まず渡邊委員からどうぞ。

### ○渡邊委員

ありがとうございます。いろいろと対策を持っている。ただ、最初の審議事項で施設の整備を進めるための方策という形でお話しいただいて、そして、いろいろな数値を見せていただいて、整備をしなければいけないといいますが、施設は幾つもある。中野区は今、何が一番本当は欲しいのですかと。以前は、老健を整備したくて、それで老健をどうやって入れようかという話があったのです。今は何を一番入れたいのかというのが分かっていますか。例えば特養は結構来ているから、特養はそんなに入れたくないでしょうという話です。老健がちょっと足りなくて、でも、周りとの兼ね合いもあるとか、認知症グループホームはどうなのかとか。何を本当に整備したいのかというのが、この資料から読み取れるかというところと分からないので、どこに重点を置いていくかということもある程度示さないと事業計画としてはどうなのかなと感じております。

例えばインセンティブをつけると言うなら、具体的に少しはこれというものがないといけない。一番最初はお金だと思ったのですよね。施設をつくるのに幾らかかると思うのですかと。例えば土地を利用しようと思ったら、土地を貸してあげて、どれだけ土地を貸した人にメリットがあるのですかということがない。そうしたら、マンションを建てたほうがずっと儲かるではないかという話になってしまう。そういうことを考えれば、銀行だって普通に借りたら年利2%とかですが、それを、今回はコロナがあったのでゼロにして、ただし期限つきで4年とか。中野区はどの程度やっているのか分からないのですけれども、そういった金利をゼロにするとかいう具体的なものが全然出ていない。

東京都が助成して、国が助成して、それに上乗せして中野区が助成しないと、助成金というのはメリットがないのですね。

だから、インセンティブでももう少し具体的に、金銭的なバックアップを重点的に行いますくらいの内容があってもいい。業者の紹介というのは、建てた人が今度は運営するために業者を加えて、その運營業者は第三セクター、いつも頼んでいる地域包括支援センターなんかでも業者を扱って、それで参入してもらっているわけですけども、運營業者のマッチングは、運営してくれないかといったら結構運営してくれるので、人材の確保もあまり構わないで済むのです。ただ、施設を導入するためには、やはりとてもお金がかかって、そこら辺りもバックアップをしっかりしてあげないと、区内に施設を持ってくるということは、そう簡単にはできないし、それができる体力のある企業に対して積極的にアプローチしないと、誘致というのは本当に難しい。

先ほどのご報告によれば、今期はどこも誘致できなかったということですよ。実績を達成できなかった。達成できなかったら、次の期、新たな施策は何をやるのですかというのがないといけない。新しいインセンティブをつけますよとしないと、去年と一緒なのではないのかという話です。こういうことを考えましたというのがあまり示されていないので、ちょっとダメ出ししては悪いのですけれども、そうしないとなかなかこれは達成できませんよと。本当にどこの区も苦しんでいますから。

それで、人材や質というのは結構頑張っているいろいろなことをやっていて、中野区の人材はうまく育っていると思います。だから、さらに上を目指してというのは、今の計画でも結構いいのではないのでしょうかと思います。

あと、数字を並べて読み取れというと結構大変で、必要性がこれくらいあって、何年度までに何件整備したいのかとか、そのために何をしますということがもう少し分かりやすい資料でもよかったかなと。頑張っていないというわけではないのですけれども、なかなかハードルが高いので、かなりのものを打ち出していかないと、他区には勝てない。

#### ○葉山介護・高齢者支援課長

改善を図っていきたいと思います。

#### ○渡邊委員

頑張ってください。

#### ○武藤部会長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

#### ○高松委員

資料12の「健康福祉総合推進計画2018年進捗状況」というところなのですが、進捗状況◎のところでも、いろいろ記載内容を見てみて、右から4つ目の「今後の課題」のところ、「特になし」と書いてあるところが幾つか見受けられまして、やることはやっていると記載にはなっているのですけれども、恐らくいろいろな措置が、同じことをやるのではなくて、質的な部分では、もう少し目指すところもあると思うのです。ここで「特になし」と、課題はなしとなってしまうと、何か見えて少しがっかりしてしまう。もうこれでいいよと線を引かれているような感じなので、うまく行けているところもあと一歩進めるような施策を検討していただくような形で考えていただいたほうがいいのかと思います。提案です。



### ○石崎福祉推進課長

確かに「特になし」というところで見直しをしてないように感じられる部分もあると思います。一方で、区政運営としてはPDCAサイクルを回すということはやっておりますので、併せて事業の見直しもやっております。それが明確にここにも出るように、記載のほうは今後検討してまいりたいと思います。ありがとうございました。

### ○武藤部会長

貴重なご指摘を頂きましてありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

それでは、次には関連情報、話題提供、私のほうに届いているものは、各委員から特に今日はございませんが、何かここでご披露いただけるような話題提供、資料はございますでしょうか。

特段なければ、まず葉山課長から調査結果速報についてのクロス分析について述べていただいて、副部会長のほうからクロス分析の経過をちょっとご報告いただけるとありがたいと思います。

### ○葉山介護・高齢者支援課長

前回の部会で、調査のクロス集計があればというお話でございました。その後、具体的にご意見を頂きまして、後日集計させていただいて、皆さんにお送りさせていただきます。それについてのご意見を頂きたいと思っております。また、次の部会では、部会報告案をお示しすることになります。これまで部会の中で審議事項がありましたけれども、その中でご発言できなかった部分であるとか、ご意見等もあわせていただければと思いますので、そういったこともお願いしたいと思います。

私からは以上となります。

### ○武藤部会長

ありがとうございます。福祉サービス向上・介護保険サービスの意向調査結果のクロス集計について、石山副部会長のほうからもメモを頂戴したと伺っていますので、その経過と中身について簡単にご報告いただけますでしょうか。

### ○石崎福祉推進課長

前回以降ですね、石山委員にどの項目をクロスするとよいか伺わせていただきました。具体的にこれとこれをクロスするとよいということでご意見を頂戴いたしましたので、今、クロス分析をしているところでございます。

### ○石山副部会長

たしか、特に今回認知症というところが先ほどのアンケート結果でも出ていて、どういったところで区民の方々がご苦労されているのか、認知症の対応というのが突出して出ていたところもあったので、その認知症とほかの項目のクロスというのが中心だったように思います。

### ○武藤部会長

ありがとうございました。テーマの趣旨は、先ほどの調査結果のところもそうですし、今、渡邊委員がおっしゃったことも、クロス分析もそうですけれども、行政として様々な調査をして生のデータが出るのですよね。もったいないなと思うのです。生のデータだけではなくて、これをもう少し焦点を絞ってさらに解析をすると、もっとよく分かる貴重なデータが出せるようになる。そんなことを感じた趣旨です。

行政だからできる調査なので、それをいかに解析するかということについて、解析の仕方についても、せっかく多方面のプロがいらっしゃるので、お聞きになったほうがよいのではないかと。結果的に区の行政に資するものになるのではないかと思います。もったいないことです。ものすごく貴重なデータがたくさんあるので。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、事務的な連絡を石崎課長からお願いします。

#### ○石崎福祉推進課長

それでは、次回の日程です。次回につきましては、9月8日火曜日の午後7時から、本日より同日9階の11、12会議室で開催いたしますので、ご予約のほうをよろしくお願いいたします。

また、本日お車でいらっしゃる方につきましては、駐車券にスタンプを押しますので、事務局のほうにご提出をお願いします。

以上でございます。

#### ○武藤部会長

ありがとうございました。

#### ○葉山介護・高齢者支援課長

すみません。先ほどちょっと私のほうで言い足りなかった部分がありますけれども、次回の部会の報告案につきましては、皆様から意見を頂いたもの、それからこれまでの部会での議論等々を含めて、事務局のほうで部会長と調整しながら皆さんにお示しできればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○武藤部会長

それでは、予定の9時よりも早めに終わりそうですが、これで閉会とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

——了——